

トーチングロード
嘶家人生 山あり、谷あり

〔第62回〕

きれいな暖簾は食べログ点数低い？

✦ 文 林家希林

text by Kirin Hayashiya ✦

落語界には定席といって365日演芸をやっている場所があります。

東京の定席はというと、浅草演芸ホール・新宿末廣亭・鈴木演芸場・池袋演芸場・国立演芸場。1日から10日までを上席、11日から20日を中席、21日から30日を下席と呼び昼夜で落語や漫才などを行っています。落語家は東京だけで600人ほどいるのですが、出られるのは1つの寄席で30人程、中には寄席の掛け持ちなどもあり、枠が更に少なくなるので、寄席に出番があるだけでもすごいこと。

この寄席に出るためには、人気や実力を兼ね備えてことが必須です。さらに、お席亭（寄席の社長さんたち）が10日間の番組を決めるので、寄席によつて演者の特色が違うのもおもしろいところですね。ちなみに希林もありがたいことに寄席に出演させていただいております。少し自慢みたいになってしまいましたね（笑）

寄席に行ったことない方は、なんか入りづらいとかどんな服を着ていけば良いですか？みたいな質問をする方が多い。答えは簡単。気軽に普段着で入れますので気負わずふらっと寄席に

お越しく下さい。寄席によっては昼夜入れ替えがないので3500円くらいで12時から21時くらいまでいられます！たまには寄席で笑って過ごすのも良いと思います！

人気や評判の計り方にもいろいろあります。今日はその中でも、旨いお寿司屋さんの見分け方をご紹介します。といっても銀座の有名店や港区女子が通うお店ではなく、江戸〜明治時代のお話。

元々お寿司は屋台などで食べるファーストフードのようなものでした。ちょっと立ち食いでつまんでさっと帰るのが粹な江戸っ子のスタイル。そして人気の寿司屋は外観を見ればすぐに分かるそう。一体どこを見ればいいのか分かりますか？ それではシンキングタイムスタート（笑）

答えは「暖簾^の」です。江戸っ子は手づかみでお寿司を食べた後、なんと手についた醤油やなんかを暖簾で拭いて帰るのが当たり前だったそうで、暖簾が汚れていけばいるほど人気店の証だったそうです。今はおしほり代わりに使ったら怒られちゃいますけどね。

profile

1989年東京浅草生まれ。父は元大関・清國勝雄。
2009年林家木久扇に入門
2013年二ツ目昇進。
2023年9月下席より真打昇進。林家木りんから「希林」に改名。身長192cmと、落語協会一の高身長！
趣味は相撲、野球、読書、競馬、マラソン、空港見学。
空港についてエッセイ、コラムを書くほどの空港マニア。
初の著書『師匠!』発売中

林家希林とかしめ・洋平の今夜は話さナイト

出演 林家希林、立川かしめ、大西洋平
毎週土曜日 24:30～25:00
K-mix（静岡FM）で好評放送中！

radiko プレミアムにご登録いただくと生放送にてお聴きいただけます。静岡エリアの方はradikoにて一週間タイムフリーでいつでも！

